



2023年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月8日

上場会社名 株式会社サイバー・バズ 上場取引所 東
 コード番号 7069 URL <https://www.cyberbuzz.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高村 彰典
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 膽畑 匡志 TEL 03-6758-4738
 四半期報告書提出予定日 2023年2月9日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第1四半期の連結業績（2022年10月1日～2022年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第1四半期	1,340	18.1	86	148.3	90	156.2	47	816.5
2022年9月期第1四半期	1,134	-	34	-	35	-	5	-

(注) 包括利益 2023年9月期第1四半期 47百万円 (816.5%) 2022年9月期第1四半期 5百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第1四半期	12.26	11.92
2022年9月期第1四半期	1.37	1.31

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年9月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第1四半期	3,339	2,052	58.9
2022年9月期	2,617	1,993	73.3

(参考) 自己資本 2023年9月期第1四半期 1,967百万円 2022年9月期 1,920百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2023年9月期	-	-	-	-	-
2023年9月期（予想）	-	0.00	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年9月期の連結業績予想（2022年10月1日～2023年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,500	28.9	400	178.2	400	133.1	200	133.3	51.23

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 当社は、年次での業務管理を行っておりますので、第2四半期（累計）の連結業績予想の記載を省略しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年9月期1Q	3,917,100株	2022年9月期	3,917,100株
② 期末自己株式数	2023年9月期1Q	13,459株	2022年9月期	13,459株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年9月期1Q	3,903,641株	2022年9月期1Q	3,814,762株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症対策としての行動制限の緩和等により、社会経済活動の正常化が進み個人消費を中心として緩やかな回復が見られました。一方で、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化に伴う資源・原材料価格の高騰や金融資本市場の変動等、先行きは依然不透明な状況にあります。

当社グループが事業展開を行う2021年の国内インターネット広告市場は、社会のデジタル化加速が追い風となり、前年比21.4%増の2兆7,052億円（注1）と推計され、継続的に高い成長率を維持しております。また、2022年の国内ソーシャルメディアマーケティング市場は、前年比23.0%増の9,317億円（注2）と推計されております。

このような環境の中、当社グループでは「コミュニケーションを価値に変え、世の中を変える。」をミッションとし、従来の「SMM（ソーシャルメディアマーケティング）事業」、「D2C（Direct to Consumer）事業」、「HR（ヒューマンリソース）事業」を展開してまいりました。また、当第1四半期連結会計期間より新たな事業基盤の強化を目的として株式会社WithLIVEを子会社化しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、売上高1,340百万円（前年同期比18.1%増）、営業利益86百万円（前年同期比148.3%増）、経常利益90百万円（前年同期比156.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益47百万円（前年同期比816.5%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、以下の前年同期比較につきましては、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組替えた数値で比較しております。そのため、従来報告セグメントとしていた「D2C事業」について、「その他」として記載しております。

①SMM事業

SMM事業では企業がSNSプラットフォームを通して消費者へ行うマーケティング活動を総合的に支援しており、主に「インフルエンサーサービス」、「SNSアカウント運用」、「Owgi（オウギ）」、「インターネット広告販売」を行っております。

「インフルエンサーサービス」では、「NINARY」及び「Ripre」を中心に、当社グループ独自のインフルエンサーネットワークを活用したプロモーション施策の企画提案を行っております。

「SNSアカウント運用」では、企業・ブランドのSNS公式アカウントの企画・コンサルティングを含めた運用代行を行っております。

「Owgi（オウギ）」では、SNS運用効果の可視化が可能な運用管理ツール「Owgi（オウギ）」の提供を行っております。

「インターネット広告販売」では、ソーシャルメディア関連広告を中心とした、他社の広告商品の販売を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、SNS広告及びその他のインターネット広告販売の増加により、四半期売上高は過去最高を更新いたしました。

以上の結果、SMM事業の売上高は1,228百万円（前年同期比10.3%増）、営業利益は240百万円（前年同期比13.5%減）となりました。

②その他

その他では「D2C事業」「HR事業」「ライブ配信プラットフォーム事業」を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、売上高は112百万円、営業利益は26百万円となりました。

（注1）出典：株式会社電通「2021年 日本の広告費」

（注2）出典：サイバー・バズ/デジタルインパクト調べ「2022年 国内ソーシャルメディアマーケティングの市場動向調査」

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は2,494百万円となり、前連結会計年度末に比べ281百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が77百万円、受取手形及び売掛金が203百万円増加したことによるものであります。固定資産は845百万円となり、前連結会計年度末に比べ440百万円増加いたしました。これは主にのれんが418百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は3,339百万円となり、前連結会計年度末に比べ722百万円増加いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は876百万円となり、前連結会計年度末に比べ252百万円増加いたしました。これは主に買掛金が120百万円、1年内返済予定の長期借入金が108百万円増加したことによるものであります。固定負債は411百万円となり、前連結会計年度末に比べ411百万円増加いたしました。これは長期借入金が411百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は1,287百万円となり、前連結会計年度末に比べ663百万円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は2,052百万円となり、前連結会計年度末に比べ58百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が47百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は58.9%（前連結会計年度末は73.3%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2022年11月9日の「2022年9月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。なお、2023年9月期の連結業績予想に与える新型コロナウイルス感染症の影響は、軽微であると考えております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,453,932	1,531,880
受取手形及び売掛金	697,191	901,070
商品及び製品	844	440
貯蔵品	1,036	1,061
その他	59,775	59,677
流動資産合計	2,212,781	2,494,130
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	61,804	61,804
減価償却累計額	△7,930	△8,965
建物附属設備 (純額)	53,874	52,838
車両運搬具	3,962	3,962
減価償却累計額	△3,962	△3,962
車両運搬具 (純額)	0	0
工具、器具及び備品	72,304	72,600
減価償却累計額	△31,275	△34,050
工具、器具及び備品 (純額)	41,028	38,550
有形固定資産合計	94,903	91,389
無形固定資産		
のれん	63,530	482,035
ソフトウェア	166	9,741
無形固定資産合計	63,697	491,776
投資その他の資産		
投資有価証券	70,884	70,884
繰延税金資産	39,959	24,835
敷金及び保証金	114,187	125,505
その他	21,364	41,453
投資その他の資産合計	246,395	262,678
固定資産合計	404,995	845,844
資産合計	2,617,776	3,339,975

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	369,352	489,547
1年内返済予定の長期借入金	—	108,000
契約負債	2,831	31,896
未払金	82,080	75,630
未払法人税等	55,237	35,455
ポイント引当金	15,220	13,210
その他	99,775	123,218
流動負債合計	624,497	876,958
固定負債		
長期借入金	—	411,000
固定負債合計	—	411,000
負債合計	624,497	1,287,958
純資産の部		
株主資本		
資本金	470,746	470,746
資本剰余金	470,746	470,746
利益剰余金	1,009,874	1,057,725
自己株式	△32,647	△32,647
株主資本合計	1,918,718	1,966,569
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,316	1,316
その他の包括利益累計額合計	1,316	1,316
新株予約権	73,244	84,129
純資産合計	1,993,279	2,052,016
負債純資産合計	2,617,776	3,339,975

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
売上高	1,134,753	1,340,677
売上原価	542,322	734,772
売上総利益	592,430	605,905
販売費及び一般管理費	557,787	519,903
営業利益	34,643	86,001
営業外収益		
ポイント収入額	—	1,369
助成金収入	—	3,592
雑収入	956	81
営業外収益合計	956	5,043
営業外費用		
支払利息	—	778
雑損失	372	0
営業外費用合計	372	778
経常利益	35,227	90,266
税金等調整前四半期純利益	35,227	90,266
法人税、住民税及び事業税	4,480	25,956
法人税等調整額	25,526	16,458
法人税等合計	30,006	42,415
四半期純利益	5,220	47,851
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,220	47,851

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	5,220	47,851
四半期包括利益	5,220	47,851
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,220	47,851

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について、重要な変更はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	SMM事業				
売上高					
外部顧客への売上高	1,113,435	21,318	1,134,753	—	1,134,753
セグメント間の内部 売上高又は振替高	250	798	1,048	△1,048	—
計	1,113,685	22,116	1,135,801	△1,048	1,134,753
セグメント利益又は損 失(△)	278,374	△48,575	229,799	△195,156	34,643

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、D2C事業、HR事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△195,156千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する事項

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結会計期間に、スタイル・アーキテクト株式会社の株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、SMM事業においてのれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は当第1四半期連結累計期間において79,413千円であります。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	SMM事業				
売上高					
外部顧客への売上高	1,228,336	112,341	1,340,677	—	1,340,677
セグメント間の内部 売上高又は振替高	220	95	315	△315	—
計	1,228,556	112,437	1,340,993	△315	1,340,677
セグメント利益	240,746	26,236	266,983	△180,981	86,001

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、D2C事業、HR事業、ライブ配信プラットフォーム事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△180,981千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

当第1四半期連結会計期間より、従来報告セグメントとしていた「D2C事業」について、当社におけるD2C事業の撤退に伴い、当社グループにおけるD2C事業の重要性が乏しくなったため、「その他」として記載する方法に変更しております。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失またはのれん等に関する事項

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結会計期間に、株式会社WithLIVEの株式を取得し、連結の範囲に含めたことにより、その他において、のれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は当第1四半期連結累計期間において444,710千円であります。なお、のれんの金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。